

常任委員会 行政視察報告

総務文教 常任委員会

令和元年7月23日(火)～25日(木)

(1) 静岡県三島市

★三島市の防災に対する取り組みについて

三島市の防災に対する姿勢は常に有事を想定しており、多岐にわたる訓練の数々を実施している。特に「自助・共助」を担う自主防災組織の活動が非常に活発であり、防災訓練の実施回数の多さに驚かされた。佐渡市としても参考になるのは、避難所の鍵は誰が保管しているのかという点で、三島市では自主防災組織の会長が避難所の鍵を所持しているだけに留まらず、各地域の防災倉庫の中にも保管されている。又、3名の現地配備員（行政職員に割り振られている）も鍵を保有している。これにより、避難所により早く着いた人が鍵を開けることが可能となっている。三島市の今後の課題につい



三島市の常設災害対策本部室

て聞くと、自主防災組織の長が交代しても同じレベルのものを組織内で継承していくことが重要との回答があった。佐渡市のこれからなすべきことは、災害発生時に重要なのはまず「自助」であり次に「共助」、最後に「公助」が来るという基本原則を啓発して行くことである。

(2) 兵庫県宝塚市

★学校給食に係る基本方針等について

宝塚市は各学校の給食室で調理する自校調理方式で完全給食を実施し、手作りを基本として児童生徒たちが食べる直前に仕上げ「温かいものは温かく、冷たいものは冷たく」提供するように地産地消も含め心掛けています。又、アレルギー食への対応として、学校と保護者が十分に話し合い、原因食物やアレルギー症状への対処方法について共通認識を持ち、児童生徒も楽しく食べられる除去食対応を実施している。佐渡市はアウトソーシング推進といえども、宝塚市のような取り組みを参考に十分に審議し行うべきである。



市民厚生 常任委員会

令和元年5月27日(月)～29日(水)

(1) 岡山県奈義町

★岡山県奈義町の子育て応援宣言の取組み

奈義町は山間部の人口約6千人の町だが、子育て応援宣言をし全国で合計特殊出生率をトップにまで持っていく、半数以上の家庭が子ども3人以上であるその取り組みは、支援制度、施設、人、物、情報、住まい、仕事、お金といったあらゆる需要を行政と市民参加とで知恵と力を集めて事業化した成果であると分かった。

(2) 兵庫県淡路市

★あわじ環境未来島構想（エネルギー関係のみ）

あわじ環境未来島構想は、県、島内3市、民間事業者の連携により推進されている。今回は主に自然エネルギーの持続性

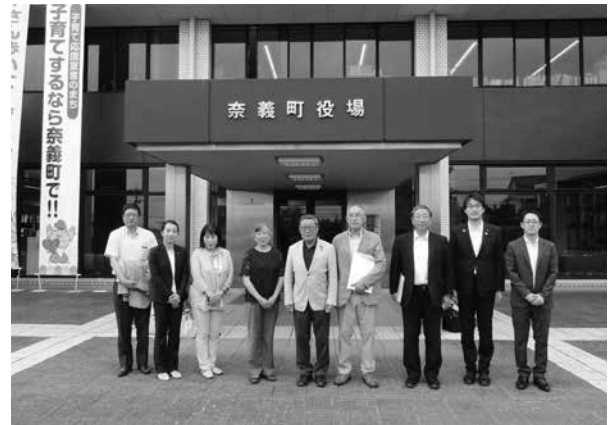
について視察し、太陽光発電、風力発電、竹チップボイラー、潮流発電について積極的に質問をした。自然エネルギーはほとんどが太陽光由来であり、安定供給のためには蓄電設備や海中送電線がもう1本あればもっと活用できるとのこと。潮流発電は、条件から実現性が低いことが分かり調査のみで終わっている。竹は竹林面積が広がっているため住民参加により伐採・活用されているが採算性は低いとのこと。

(3) 兵庫県明石市

★明石子ども総合支援条例、離婚前後の子ども養育支援、あかしプレパパ手帳の取組み

明石市のまちづくりの基本理念は、子どもの権利条約の原則「子どもの最善の利益」を追求し①すべての子どもたちを②まちのみんなで③子ども目線で④本気で応援の4本であり、積み上げてきた子育て事業が、市長が代わっても継続されるようにと明石市子ども総合支援条例を策定した。民間の専門家やアドバイザーも活用しながら組み立てた明石市のきめ細かい事業は、法務省が参考にして政策にするまでになっている。

◆所感
子育て事業はいずれも首長の本気度による成果を感じ、実り多い視察となった。



奈義町役場正面玄関

産業建設
常任委員会

令和元年5月22日(水)～24日(金)

農林水産業を中心とした地域の雇用創出に対し、行政がどのような役割を担っているのかという視点から視察先を選定し、高知県四万十町、黒潮町へ訪問した。

(1) 高知県四万十町

★元第三セクターの地域商社「四万十ドラマ」

合併前の3町村が立ち上げた



四万十町のトマト栽培施設

「四万十ドラマ」は元農協職員であった現在の社長が地域に既にある商品にストリーという付加価値を乗せ、高単価商品として販売している。現在は出資自治体から株式を買い戻し、地域住民に売却し、完全民営で運営している。
売上は約3億円、約30名を雇用。

★コンピュータ制御された四万十町次世代施設園芸団地

国と高知県から大きな補助を受けた県内の3社が高知県の土地を活用して東京ドーム1個分もある園芸団地を整

備した。

この園芸団地では農業先進国であるオランダの技術でトマトを水耕栽培し、高品質・多収量・周年安定生産を行っている。主な顧客は大手の食品メーカーやファミレス、ハンバーガーチェーン。高知県の東京・大阪事務所が積極的に営業活動を行なっている。

3社合計で売上は約6億円、約100名を雇用。

(2) 高知県黒潮町

★黒潮町長が社長の缶詰工場

南海トラフ巨大地震で全国一高い津波の到達が想定されている高知県黒潮町。「防災」という観点から、缶詰を販売し、雇用を創りだそうと町長自らが立ち上げた第三セクター「黒潮町缶詰製作所」では都会の20代から30代の女性をターゲットとし、オシャレなパッケージデザインの高級缶詰を販売している。

売上は平成28年度で約6800万円、約10数名を雇用。

◆所感

本気で地域の雇用創出を考えているのであれば、公社や第三セクター、民間という縛りを設けずに、地元に住む若い方が意欲を持って働ける環境を作る事がトップの使命であると改めて感じた視察であった。

議案等の審議結果一覧

【第5回（8月）臨時会】

◎は全会一致で可決、○は賛成多数で可決、×は否決、△は継続審査

議案の番号	件名	審議結果
議案第75号	専決処分の承認を求めることについて（令和元年度佐渡市一般会計補正予算（第6号）について）	◎
議案第76号	財産の無償譲渡について（伝統文化と環境福祉の専門学校）	◎

【第6回（9月）定例会】

◎は全会一致で可決、○は賛成多数で可決、×は否決、△は継続審査

議案の番号	件名	審議結果
議案第77号	佐渡市印鑑条例の一部を改正する条例の制定について	◎
議案第78号	佐渡市立幼稚園条例及び佐渡市へき地保育園条例の一部を改正する条例の制定について	◎
議案第79号	佐渡市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について	◎
議案第80号	佐渡市議会議員及び佐渡市長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例の制定について	◎
議案第81号	佐渡市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	◎
議案第82号	佐渡市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	◎
議案第83号	公の施設に係る指定管理者の指定について（佐渡市ケーブルテレビ放送施設）	◎
議案第84号	財産の無償貸付について（佐渡市栽培漁業センター）	○
議案第85号	令和元年度佐渡市一般会計補正予算（第7号）について	修正可決
議案第86号	令和元年度佐渡市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について	◎
議案第87号	令和元年度佐渡市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について	◎
議案第88号	令和元年度佐渡市介護保険特別会計補正予算（第3号）について	◎
議案第89号	令和元年度佐渡市下水道特別会計補正予算（第1号）について	◎
議案第90号	令和元年度佐渡市歌代の里特別会計補正予算（第1号）について	◎
議案第91号	令和元年度佐渡市すこやか両津特別会計補正予算（第1号）について	◎
議案第92号	令和元年度佐渡市病院事業会計補正予算（第1号）について	◎
議案第93号	令和元年度佐渡市水道事業会計補正予算（第1号）について	◎
議案第94号	両津クリーンセンター一部（煙突・雨水調整池）解体工事請負契約の締結について	◎
議案第95号	平成30年度佐渡市一般会計歳入歳出決算の認定について	△
議案第96号	平成30年度佐渡市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	△
議案第97号	平成30年度佐渡市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	△
議案第98号	平成30年度佐渡市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	△
議案第99号	平成30年度佐渡市下水道特別会計歳入歳出決算の認定について	△
議案第100号	平成30年度佐渡市小水力発電特別会計歳入歳出決算の認定について	△

議案の番号	件名	審議結果
議案第101号	平成30年度佐渡市歌代の里特別会計歳入歳出決算の認定について	△
議案第102号	平成30年度佐渡市すこやか両津特別会計歳入歳出決算の認定について	△
議案第103号	平成30年度佐渡市五十里財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	△
議案第104号	平成30年度佐渡市二宮財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	△
議案第105号	平成30年度佐渡市新畑野財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	△
議案第106号	平成30年度佐渡市真野財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	△
議案第107号	平成30年度佐渡市病院事業会計決算の認定について	△
議案第108号	平成30年度佐渡市水道事業会計決算の認定について	△
請願第2号	「学費と教育条件の公私間格差是正にむけて、私立高等学校への私学助成の充実を求める意見書」の採択に関する請願	◎
請願第3号	国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願	×
陳情第6号	奥山等のスギ・ヒノキ放置人工林を、森林環境譲与税（仮称）で順次計画的に皆伐を進め、天然林に戻すことを求める陳情	審議未了
陳情第10号	新潟交通グループに対する適正なる助成金の支出を求める陳情	△
陳情第12号	日本政府に対して、国連の「沖縄県民は先住民族」勧告の撤回を求める意見書の採択を求める陳情	△
陳情第15号	地産地消の促進についての陳情	△
陳情第16号	学校給食センター調理・配送業務の民間委託に関する陳情	◎
発議案第8号	佐渡市議会議員政治倫理条例の制定について	◎
発議案第9号	学費と教育条件の公私間格差是正にむけて、私立高等学校への私学助成の充実を求める意見書の提出について	◎

◇賛否等の内訳 上表の賛否の分かれた議案(網掛け)について、議員別に賛否等を公表します。

議案等の番号	議決結果	賛否の別		新生クラブ						政友会		日本共産党市議団		市政会	地域政策研究会			公明党	国民民主党	政風会		無会派			議長 猪股文彦	
		賛成	反対	佐々木ひとみ	広瀬大海	上杉育子	駒形信雄	金田淳一	佐藤孝	稲辺茂樹	岩崎隆寿	中川直美	中村良夫	竹内道廣	後藤勇典	渡辺慎一	祝優雄	山田伸之	近藤和義	室岡啓史	坂下善英	伊藤剛	宇治沙耶花	荒井眞理		
84	可決	17	4	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
85 修正	可決	21	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
85 修正 除く 原案	可決	17	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	
請3	否決	7	13	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	●	○	退	●	○	●	●	○	○	○	○	○	

※○は賛成、●は反対、退は退席、欠は欠席。なお、議長は採決に加わらない。

佐渡市議会だより 表紙写真 大募集



市民の皆様が親しまれ、議会をより身近に感じていただけるよう、佐渡市議会だよりの表紙写真を募集しています。

【応募資格】 佐渡市内に在住、在勤、在学の方

- 【募集作品】
- 撮影場所 佐渡市内で撮影したものに限りです。
 - 応募点数 応募は1人、1回につき3点までとします。
 - 被写体 四季折々の風景、まつり、学校行事、地域行事等の各種イベント（人物、風景は問いません）
 - 規格等 デジタル写真データ（5MBまで）で提出いただくものに限りです。

【応募方法】 応募用紙に、撮影者の氏名、住所(市外在住で市内に在勤、在学の方の場合は、会社名か学校名も記載)、連絡先、撮影場所、撮影時期、写真のタイトル(10文字以内)を記載のうえ、佐渡市議会事務局までメール(gikaidayori@city.sado.niigata.jp)にて送付または、USB、CD等で郵送もしくは持参してください。
応募用紙は、佐渡市議会のホームページからダウンロードしていただくか、佐渡市議会事務局までお問い合わせください。

【応募締切】 次号(令和2年2月発行)の締切は令和2年1月6日(月)です。

※詳しくは、佐渡市議会ホームページまたは佐渡市議会事務局まで



◆議会の動き

年	月	日	内 容
令和元年	7月	3日	総務文教常任委員会
			産業建設常任委員会
		4日	産業建設常任委員会
		8日	議員全員協議会
			航路問題に関する調査特別委員会
		10日	佐渡市議会政治倫理に関する特別委員会
		12日	議会報編集特別委員会
		19日	議会報編集特別委員会
	22日	佐渡市議会政治倫理に関する特別委員会	
	8月	6日	議員全員協議会
			議会運営委員会
		9日	第5回(8月)臨時会
		19日	佐渡市議会政治倫理に関する特別委員会
		20日	議員全員協議会
議会運営委員会			
各派代表者会議			
23日	市民厚生常任委員会		
29日	議員全員協議会		
9月	3日	議会運営委員会	
	6日	第6回(9月)定例会(～27日)	

◆行政視察の受入状況

年	月	日	内 容
令和元年	7月	9日	広島県尾道市議会(観光地域づくり事業、クルーズ船の寄港促進の取り組み)
		17日	三重県津市議会(地産地消推進事業)
		23日	静岡県焼津市議会(観光資源の活用と取り組み)
		25日	三重県伊賀市議会(観光地域づくり推進事業)
		1日～2日	上越市議会(広域観光連携の取り組み)
	8月	27日	広島県廿日市市議会(朱鷺と暮らす郷づくり認証制度)

表紙の写真

令和元年10月17日～18日

姉妹都市国分寺市議会議会交流会

議会だよりの編集および議会活性化の取り組みについて、両市議会議員による活発な意見交換が行われ、有意義な交流会となりました。

また、佐渡市の先進事例としてレジ袋の有料化等について視察研修も行いました。

編集後記

近年の異常気象による甚大な被害は世界的な問題である。スウェーデン人の環境保護活動家のグレタ・トゥーンベリさん(16)が国連気候行動サミットにおいて、各国の首脳や閣僚の前に、激しい口調で演説したことは、見ていた世界中の大人たちに、おおきな衝撃を与えたと思う。

本市においても他人事ではない。集中豪雨による河川の氾濫やがけ崩れ、夏の異常気象による農作物の高温被害、また、冬の低温による全島的な水道凍結被害等、毎年のように災害が続いている。

次世代を生きる子どもたちのために、我々は「One for all All for One」の精神で、地球環境を守らなければならないと痛感した。

岩崎 隆寿 記